

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

## 幼児教育センター

# TAKARA 宝っこだより 13

平成30年(2018年)7月

梅雨明けもまだというのに、照りつけるおひさまのパワーは、なかなかのものです。各幼稚園・保育所(園)でも水遊び・プール遊びに子どもたちの身体や心は大いに開放されていることと思います。さて、先日の日本教育新聞で東京大学大学院 秋田 喜代美教授が次のようなことを書かれていました。

「『生きる力』育成には苦い経験も必要。…バリアを超える資質を育む」という内容でした。どうということかと言いますと、現在、バリアフリーの環境が広く普及している。このデザインによって様々な人が恩恵を受けている。誰にとっても優しい環境は「どの人も参加できる」「それによって多様な経験を多くの人に保障できる」という点で素晴らしい環境である。しかし「そうした環境に慣れることで、幼い時に段差がある場所を経験することが減っている。このことが、子どもにとって思いもよらない怪我を生み出している」という内容でした。

そう思えば、「舗装された道路」「高層住宅に不可欠なエレベーター」「自動扉に自動水栓」、最近のトイレ環境ひとつとってみても・・・トイレに入れば自動的に便座の蓋が開き、終われば自動に流れる。手を出せば、自動水栓から水やお湯が出る。手を入れれば温風が出て、手を乾かしてくれる。この自動の裏側には、自分で行動する機会が奪われている！と私は強く感じるのです。子どもたちの生活経験が今と昔では極端に異なってきているのです。

怖いのは「便利さからくる弊害」ではないでしょうか。

そこで、秋田 喜代美教授は、「『バリアフリーで暮らしやすい』ことと、『乳幼児期から、いつもそうした環境で育つのが良い』ことは別物。このような時代だからこそ、ある程度のバリアを自分で足を上げて越えられるようになる経験を通して、資質を育んだり、自己防衛力を育んだりする経験も必要である」と言われています。

もちろん危険は除外する必要がありますが、園所内のそれぞれの空間の中で、子どもは、困り体験や苦い体験から、自分で気付くこと・見つけること・発見すること・考えること・そして自ら動き出すことを学んでいくのでしょうか。そんな、環境構成は乳幼児期にとって「生きる力」を育む環境となるのでしょうか。

**研修会と情報交換会のお知らせ！** <宝塚市保幼小中特別支援学校合同研修会>

平成30年(2018年)8月9日(木)

1部:13時30分～14時50分

講話「学びと育ちをつなぐ保幼小中特別支援学校の連携教育について」

甲南女子大学 人間科学部 総合子ども学科 伊藤 篤教授

2部:14時55分～15時30分

中学校区別ブロック別協議会(各中学区ごとに分かれて情報交換を行います)

もうすぐやってくる**11日**にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

TEL:0797-77-2132

